

昭和五十一年三月

岩手県文化財調査報告書第四十五集

秋田街道

岩手県「歴史の道」調査報告

岩手県教育委員会

昭和十五年三月

岩手県文化財調査報告書第四十五集

秋田街道

岩手県「歴史の道」調査報告

岩手県教育委員会

序

道・河川などの交通路は、古くから文物や人々の交流の舞台になつておおり、本県の歴史を知る上にきわめて重要な意味をもつております。

しかし、近年、産業経済が著しく発展し、社会構造が変遷するなかで、かつては交通が大変不便であった山道も改良され、舗装されて近代的な道路にかわりつつあります。これに伴つて街道の並木・番所跡・一里塚などの交通関係の遺跡も急激に失われてきておりますが、本県では、このような現状を重視し昭和五十三年度から国庫補助を受けて歴史の道の調査を実施して参りました。

本報告書は、本年度に調査した七街道のうち、奥州道中の盛岡宿から西へ進み、国見峠を経て秋田藩領にいたる「秋田街道」の岩手県分について、街道の現状と文化財の保存状況など、その周囲の環境を含めて総合的に調査し、その成果を集成したものであります。

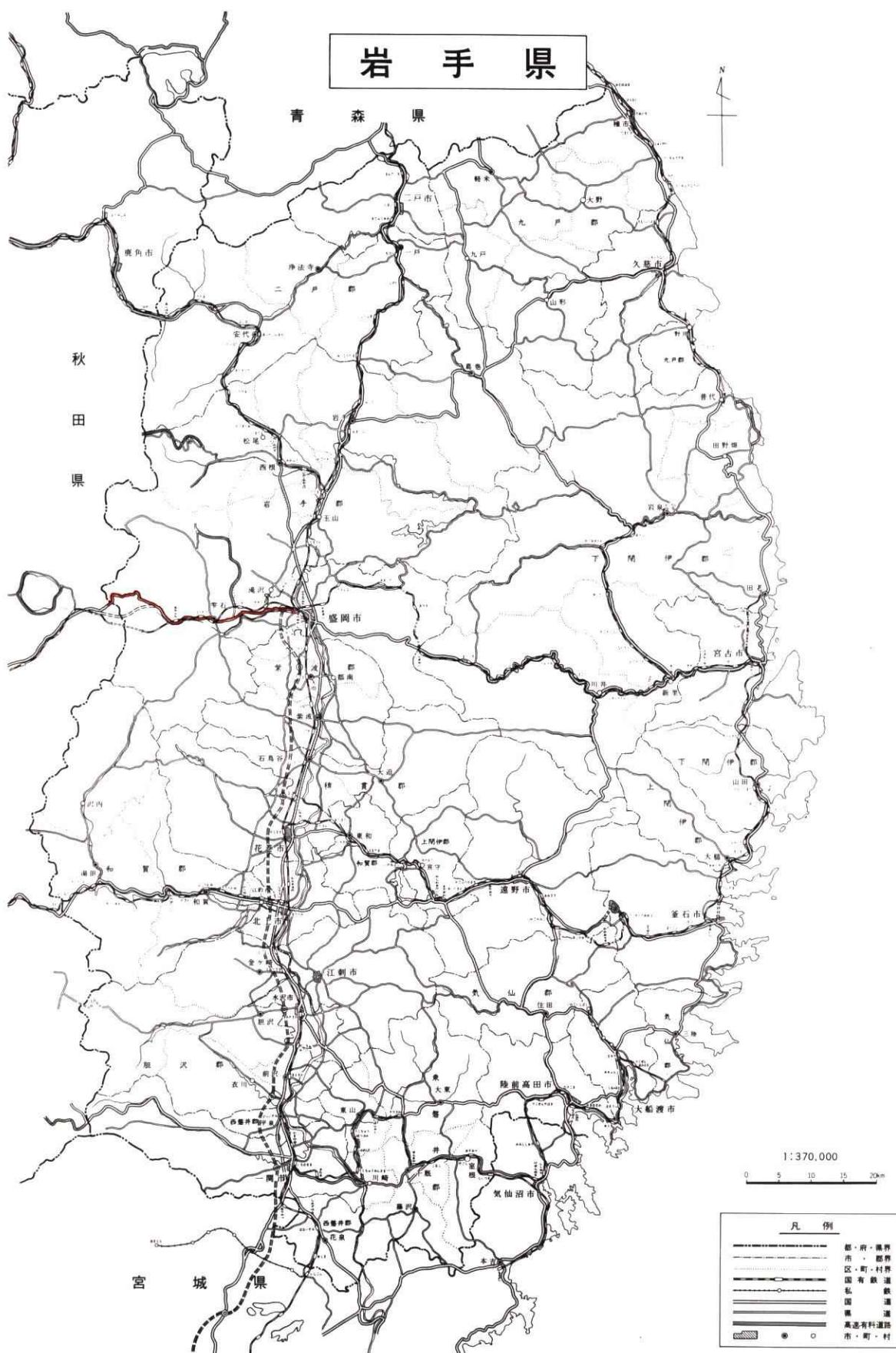
本書が、今後の交通関係遺跡の保護及び歴史の道研究の一助となれば幸いであります。

なお、調査に御協力いただきました調査員各位並びに関係市町村教育委員会をはじめ、諸資料を提供してくださつた方々に対し、衷心より感謝申し上げます。

昭和五十五年三月

岩手県教育委員会
教育長 新里 盈

岩手県



例　　言

一、本書は歴史の道「秋田街道」に関する報告書である。

二、本調査は主として次にあげるものを収集し、調査を実施した。

(+) 収集したもの

古文書、地誌類、紀行文、古絵図類や明治時代の実測図など。

(-) 調査した事項

ア　道及びこれに沿う地域に残る遺跡の分布状況と保存の実態。

イ　江戸時代の国界・藩界及び郡名。

三、本調査の調査員・補助員は左記のとおりである。

主任専門調査員　　草間俊一　岩手大学教授

専門調査員　　細井計　　岩手大学教授

専門調査員　　吉田義昭　　盛岡市教委文化財専門員

地区調査員（盛岡市）　菊池常雄　滝沢村文化財調査員

地区調査員（雪石町）　川崎義仲　前雪石町教委職員

補助員　　高橋哲郎　　岩手大学文部技官

四、調査の方法は、地区調査員が調査カードを作成し、調査カードにもとづき専門調査員が確認調査を行なつた。

五、本書は、主任調査員草間俊一が執筆し、文化課が編集にあたつた。

目

次

岩手県教育委員会教育長 新里盈

序 言

一、まえがき

二、秋田街道の概要

三、秋田街道について

四、文化財・その他

南部領貞享図

写 真

地 図

23 14 13 10 8 7 7

一、まえがき

ここに云う秋田街道は、明治十四年岩手県が県里道をきめた際、唯一の一等県道秋田街道（盛岡ヨリ零石・橋場ヲ経テ秋田県生保内ニ至ル、途中二駅）とあるもので、岩手県から秋田県に通する最も重要な道であった。秋田街道の名稱は江戸時代の記録では明らかでないが、盛岡から出る時は零石街道と『盛岡砂子』と呼んでおり、零石では「秋田往来」と呼んでいた。明治五年の上野辨吉の修路の願書に秋田街道とあり、明治八年県道に指定されている。現在の国道四十六号線である。

江戸時代、盛岡に南部氏の居城が置かれた結果、城下盛岡と秋田を結ぶ最短距離の道となつた。しかも、江戸時代の前半、京・大阪の物資は日本海を利用して西廻り航路で輸送された際、秋田湊に陸揚げされて、陸路この街道が利用され輸送された。宝暦年間野辺地湊が開かれて、奥州道中が利用されることになつても、盛岡の近江商人は秋田湊に陸揚げして輸送する方が、距離も近いのでこの方を望んでいた。^③秋田の佐竹藩と盛岡の南部藩を結ぶ主要な道路であったので、巡見使もこの街道を利用した。また、幕府その他の諸藩の御馬買衆が仙北郡から国見峠を越えて、零石経由で盛岡に来ていることが田中喜多美氏によつて報告されている。

中世においてはどうかといふと、零石（滴石）に戸沢氏の居城があつて戸沢氏の所領がこの地にあり、その一族が仙北地方に所領を有し勢力をもつていたので、この道は仙北地方との連絡のために相当利用され、零石と角館との関係が密接であった。この両地方の関係が、山本茂実『塩の道・米の道』（角川文庫本）では「みちのくの夜這い道」と表現されているのは、民俗学的興味からの叙述であるが、事実かどうか疑わしい。また頼朝の奥州平泉氏征討に当つて、北陸道の軍が、この道を通つたとするのも疑問である。^④

この街道の調査に当つては、現地調査員として、盛岡市については菊池常雄氏、零石町については川崎義仲氏を委嘱して調査した後、八月六日午前中、岩手県序を出発して自動車で国見峠まで行つた。途中、二、三の神社・寺院を見学ただけで、その後の補足調査もないまま調査完了という、県教委の担当者の見解で、秋田街道について執筆してもらいたいということで、歴史の道の調査としては全く不充分で、執筆もはばかられる次第であるが、川崎義仲氏に再度、現状を聞いて執筆したもので、全く不充分であるが、今後の調査で不足分などころは補い度いと考えている。

秋田街道について、『南部叢書』にある郷土誌関係の著書の外、岩手県立図書館蔵の絵図ならびに諸記録、『岩手県史』、『零石町史』（零石町・同教育委員会・昭和五十四年）、田中喜多美『零石町誌零石街道の歴史』（零石町教育委員会・昭和四十二年）などがある。

①『岩手県史 第十卷』一二二頁

②『零石町史』九六六頁

③『岩手県史 第五』一二六〇頁

④『零石町史』序文（田中喜多美）

二、秋田街道の概要

秋田街道は南部藩の古絵図によるものと、藩政時代に秋田街道といわれるものと、一部道筋が違つてゐる。即ち、盛岡を出はずれた前潟から土淵を通るのは良いが、それから大釜に出ず、谷地道—上篠木—篠木坂峠を越えて、丸谷地（現小岩井農場本部附近）—沼返（小岩井農場南境附近）から七ツ森の北側を通つて、晴山から零石に出たように古絵図では見られ、この古道は小岩井農場部分はともかく、現在ほんたどることが出来る。そして、この道に沿つて一里塚が築かれたようにはあるが、現在秋田街道として、一里塚の残つて、北陸道の軍が、この道を通つたとするのも疑問である。

いるのは土淵から大釜に出て、現国道を西に進む秋田街道である。この道に変更したのは、寛永十七年と菊池常雄氏は記しているが、その根拠は明らかでなく、それ以後の『南部藩領内總繪図』にも篠木坂峠を越える道路が記されている。

それから西へ橋場までは若干道路の変更はあるが、ほぼ現国道に沿っているが、橋場から現国道をそれで左手、南側の坂本川沿いに山を登り仙岩峠に出で、山の尾根近い斜面の山道を国見峠へ出て、秋田県の生保内に向って下ることになる。この間「盛岡領内大道筋記」（県立図書館蔵）によれば、

一、盛岡ヨリ滴石マデ三里 平地山続

此間北上川夕顔瀬橋四十八間深五尺土橋

諸葛川板橋五間三尺

一、滴石ヨリ橋場マテ二里十町 谷川路

此間葛鼓田川広九間深二尺

零石川広五間深壹尺五寸

一、橋場ヨリ国見峠（妻）神境目マテ三里二丁二十八間
此間大山難所、雪中牛馬不通、秋田領小保内へ出ル

とあるが、同書の駄賀附の項には「盛岡ヨリ零石マテ四里八丁百廿文」とある。また、宝永七年（一七一〇）巡検使下向が伝達されて、その道を実測して一里毎に里程標示の木柱を建設した。その際の計測によると次の如くである。

道規数
メ拾里六丁拾七間半

内四里拾七丁五拾五間ハ、盛岡より零石町の御札迄。此内武里三拾四丁九問半、盛岡より仁佐瀬橋きわ迄栗谷川大釜領

一、壹里廿九丁四拾六間仁佐瀬橋より、町の御札迄零石領。同武里拾九丁四拾武間ハ零石町御札より、橋場村御札迄。同武里三拾丁四拾間半ハ橋場より国見御境杭迄右之通、江敷善左衛門様御改、壹里間杭御立被成候。（下略）

（「繫村肝入館市家留書帖」）

この秋田街道のうち、橋場から国見峠越の道は容易でなかった。『邦内郷村志』の国見峠とところに「滴石県奥羽界經此嶺上為往還、險崖絕壁羊腸之磴道而左右臨數百丈之幽谷、故牛馬不通、三冬積雪絕行人旬日、逾此山一出千秋田仙北郡小保内、是云小保内越也」とある。従つて、明治になつて橋場からの国見峠越の道はしばしば改修が行なわれ、国見峠まで登らず仙岩峠（明治九年、この道路の開通によつて、仙北郡と岩手郡を結ぶというのでこの名称がつけられた）ヒヤ潟より、直に秋田県側に下る道路が作られたり、仙岩峠に出ず、滝川沿いに国見温泉の下を通つてヒヤ潟に出る道に切替えられたが、何れにしても冬期積雪時の車馬の通行は出来なかつたが、最近仙岩トンネルの開通によつて、冬期の通行が可能となりその面目は一新した。しかし、藩政時代の秋田街道は現在も通行可能な状態にある。

三、秋田街道について

盛岡城下から、秋田・鹿角・津軽方面への出口として、夕顔瀬橋は重要な橋であった。従つて、藩政のはじめ舟渡しであつたが、早くから架橋の計画が進められた。その橋もその都度洪水のために流された。それを明和二年（一七六五）梅内忠左衛門の設計によつて、川中に大石でもつて中島を築き、橋桁を高め、両岸から中島に土橋を架けることによつて、架橋に成功した。

夕顔瀬橋を渡り、西にある町並が「新田町」である。「組屋敷百戸」（『邦内郷村志』）といわれる。足軽丁がありその先が「三十軒（間）」で、次に「舛形」があつた。盛岡城下からの出口は四か所に舛形があつた。奥州道中の南の仙北町と北の上田それに遠野・大槌への街道の神子田とここのがか所である。現在その名残りは全くないが、向田米店の附近である。『盛岡砂子』によれば、「舛形（中略）是より先、零石街道なり」とある。それから並木が植えられていたと「盛岡砂子」にあるが、今は市街地でその面影は全くない。

次いで、三ツ家のはずれで零石川の川岸に出るが、そこには現在太田橋が架かっているが、むかしは舟渡しで対岸の太田村に行つたもので、沢田の渡しといつていた。

道は零石川の川岸を西に向うと、右手に稻荷神社がある。前潟から現国道は川沿いに西に進むが、旧道は西北方土淵を迂廻して、大釜の竹鼻で再び現国道と一緒にになる。この道路沿いに江戸時代の古碑が立っている。土淵小学校と神山神社の入口附近に多い。年号は文政十一年のものが最も古い。

竹鼻から旧道は現国道と同じで、西に向う中道の道路北側に「日向一里塚」が一基残存する。南側のものは破壊されてあとかたもない。県指定の文化財となつている。

国道は仁沢瀬川を渡ると零石町となるが、それから尾入十文字までは戦前は立派な松並木が残っていたが、戦争中の昭和十八年、松根油採取のため切り倒されて、現在はなればなれになつた二本の松の木が、昔の名残りをとどめている。仁沢瀬の坂を上つたところに長山への分岐点があり、道標が立っている。尾入十文字は、秋田街道に小岩井駅の方から来た道が横切つて繫温泉に向う道路となり、十文字の名がある。秋田街道から繫に向かう道は昔からあつたもので、道が零石川岸に下りたところに尾人の舟渡しがあつて、繫温泉に行けた。この渡しのあつた附近に尾人の番所があつた。これは零石川を下る材木筏の検査をする番所で、『郷村古実見聞記』には「一 物留御番所 尾入 但零石通り御番所にて、御境御番所に無之」とある。

尾入十文字から西に一・五kmほど行つたところ、元御所に、沢内街道への分岐点がある。現在ガソリンスタンドのあるところである。沢内街道への正式の道は、後述の零石町からの分岐点であったようであるが、盛岡からくると、この方が便利なので相当古くから使用されていたようである。川崎義仲氏の説では、寛文九年（一六六九）としている。

この分岐点から一kmほど行つた、道路の両側に一里塚が残つている。この一

里塚は保存もよくなされている。「生森一里塚」と呼んで、県の指定文化財になっている。前述の「日向一里塚」からこの一里塚まで、自動車のメータで測量したところ四・六kmで、これから次の高前田の一里塚までも、同じ四・六kmである。四・六kmというと、ほぼ四十二町一里で、一里塚が築かれたとも考えられる。

同様、秋田街道でも四十二町一里で、一里塚が築かれたとも考えられる。生森一里塚が西に行くと、黒沢川のところで現在零石バイ・バスが作られている。そのバイ・バスの南側に残る農道が、旧秋田街道で現在の国道は少し南よりに零石城跡の堀割から、本丸南側を通る道となつていて。旧道は真直ぐに西に進み、零石城跡の北側の崖下を通り、館坂を上つて零石町に入つた。この道は明治三十三年の豪雨で氾濫して、大きな被害を出したので、明治三十五年から現国道に変更された。

零石町内を通る旧道沿いには、滴石城跡、永昌寺、臨済寺、広養寺、零石代官所跡、北浦稻荷社、南学院跡がある。零石町並をすぎて、高前田で旧道は西に直進していたが、「零石町はずれ蒼前堂谷地、大ぬがりにて通用悪敷」といわれた道であったので、現国道は西南方に変更されている。旧道は葛根田川の東側では残つていて、川の西側では構造改善事業によつて消滅している。

旧道は農協ガソリン・スタンド付近で現国道と一緒になるが、春木場部落のはずれで、旧道は南側に迂廻して、駆せ下り付近で旧道は現国道と交叉して、国道の北側はさらに田沢湖線の北側に出て、山麓を通つて山津田付近まで現国道で再び国道と一緒になる。この間の旧道は、農道または山麓の藪のなかに埋れているが残つていて。

山津田から橋場までの旧道は、ほぼ現国道と一緒になるが、安柄附近の南に迂廻したところが直線となり、橋場のところでも旧道は南側を迂廻している。この間、赤渕駅の附近に一里塚があつたといわれるが、北側は鉄道によつて、南側は、住宅（駒草食堂）によつて破壊されている。

橋場部落のはずれ、零石川の東岸、道路の北側に「橋場関所遺趾」の石碑が

立つてはいる。橋場番所跡と推定して建てられたものであろう。秋田との物資の交易を監視する番所である。

下石川を渡つて現国道に対し西に真直ぐ進む道が旧道で、坂本川沿いに仙岩峠に向かって山を登る。仙岩峠からは山頂の尾根沿いの南斜面(北風をさける)を、最近までの国道の頂上ヒヤ湯(八三五・五m)に出、それから国見峠まで一二〇mほど登つて、秋田県の生保内に向かって下ることになる。この間の道は現存して旧道の面影を留めている。この間の実地踏査をしないまま、報告を書かなければならぬが、川崎義仲氏より聴取したところによると、この間古絵図によると一里塚が三か所にあることになっているが、橋場から旧道に入つて間もなく一里塚らしい大きな石積があるとのことである。中程の仙岩峠よりやや下つたところの一里塚らしいものが現存することである。

仙岩峠には、道路をはさんで秋田県側と岩手県の両方に塚があり、それぞれ石柱が立っている。南部領側のものには「従是西南秋田領」と刻まれている。国見峠には秋田県側に藩境塚があり、道路の反対側に石柱が立つていて、それには「従是北東盛岡領」と刻まれている。

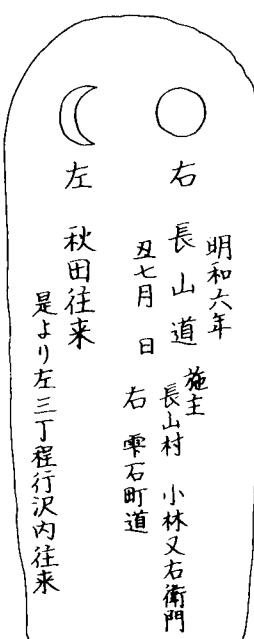
四、文化財・その他

- (1) 外形(本文参照)
- (2) 沢田の渡し場 現在の太田橋の約百メートル上流で、南岸に舟着場跡らしい石一個ある。
- (3) 稲荷神社 文治五年頼朝奥州征伐で、工藤行光がこの地を拝領した時に建立したものと伝えられる。文政十二年桜庭氏奉納の扁額、安政五年銘のある鰐口、宝永二年の宗源宣旨がある。
- (4) 神山神社 「奥々風土記」の土淵村にあった鹿島神社と神山神社とが合祀されている。附近に江戸時代後期の石碑が多くある。

(5) 日向一里塚 昭和四十一年に調査され、その報告に、「塚の裾部は四周とも欠削されて円形をなしている。東西径は残存部で八メートル、南北径は八メートル五〇センチ。塚の裾部より頂部までの高さ二メートル強。至近道路面より塚頂部まで三メートル強ある(中略)。塚頂には一辺一メートル三〇センチ、深さ五七センチほどの方形に濫掘された跡があり、頂部に後に三メートルほどの高さに自生した雜木が七本あった。」とあるが、現状は道路わきの叢中の土盛りとして、その保存管理は良好とは云えず、注意しないと見おとしてしまう。この調査後、現在保護の手が加えられた。

(6) 松並木 この街道の並木の補植は承応二年(一六五二)に一里塚の破損修理と共に行なわれ、その後延宝元年(一六七三)・元禄四年(一六九一)にも手入れが行なわれ、享保八年(一七二三)にも補植の行なわれた文書がある。従つて、街道の並木は相当立派であったと思われる。その名残りが戦前にあつたが、現在幹の太さ二九三cmと二六三cmの二本が残るにすぎない。

(7) 板橋の道標 地上高七五cm。



- (8) 文政五年の青面金剛と庚申塔と刻んだ石碑と並んで立っている。
- (9) 元御所の分岐点(本文参照)
- (10) 生森一里塚 昭和四十一年に調査されている。その報告によると、北側一里塚は「塚の東北部が大きく欠削している。東西径は残存部で一一メートル

五〇センチ、南北径一二メートル二〇センチであるので、東北部は欠削されているとはいうもののほぼ原形を推察することができる。塚の裾部より頂部までの高さは二メートル七〇センチ、至近道路面より塚頂まで三メートル五六センチ。頂部には径一メートル余、高さ一二メートルほどの松の大樹がある。」

南側一里塚は「塚の頂部がやや削平されており、平面底形は方形らしい痕跡をとどめており、東西径一二メートル七〇センチ。南北径一二メートル六〇センチ。塚の裾部より頂部までの高さは二メートル二〇センチ。至近道路面より塚頂まで三メートル九〇センチ。頂部に二本の松の木がある。一本は径四〇センチ、高さ一〇メートル。その西にある他の一本は径六〇センチ、高さ一〇メートルほどである。」とある。現状は報告と大差なく、保存も良好である。

(11) 滴石城跡・八幡宮 道路の北側に滴石城跡として堀跡も残っているが、一部埋め立てられ住宅地となっている。本丸跡には八幡宮が祀られており、正徳三年（一七一三）の銘のある鰐口が奉納されている。

(12) 永昌寺・大森地蔵堂 曹洞宗・広養寺の末寺で寛永年間の創建と伝えられる。境内に大森地蔵堂がある。安産祈願の子子地蔵である。

(13) 臨済寺 万治元年の開山と伝えられる。三十点近い江戸時代の絵馬がある。

(14) 沢内街道の分岐点 古絵図によると沢内への分岐点で、南に下つて根掘りで雪石川を渡つたようである。後には元御所の分岐点が利用されるようになつた。

(15) 広養寺・知新館 広養寺は曹洞宗で、天正年間の開山と伝えられる。境内に町内御明神滝沢の滝藤家を移築した、中門造りの曲家が知新館として移築されている。生活史料館として計画されているが、充分整備がなされていない。町の補助を必要とする施設である。

(16) 雪石代官所跡 雪石の代官所跡は、役場として利用されて今日に至つている。

(17) 三社座神社 明治四年郷社となつた神社で、天照皇大神、春日神、八幡神を合祀している。

(18) 高前田一里塚 昭和四十年に調査されている。その報告によると、北側一里塚は「塚の平面底形は方形で、東西径八メートル五〇センチ。南北径八メートル五〇センチ（以上ママ）。塚の裾部より頂部までの高さは二メートル五〇センチ。至近道路面より塚頂部までは三メートルあるので、塚はほぼ原形の高さを保つているとみなしてよいであろう。塚頂には後に一二メートルほどの高さに自生したケヤキが七本あつた。

南側一里塚は「塚の平面底形は隅丸方形で、東西径八メートル二〇センチ。塚の裾部より頂部までの高さは二メートル五〇センチ。至近道路面より塚頂部までは三メートルほどあるので、塚は原形の高さを保つているとみて差支えないであろう。塚の頂には、後に補植した杉で一二メートルほどの高さにはえていた。数えてみたら一六本あつた。」とあるが北塚は報告の状況であるが、南塚の十六本の杉の木は塚及びその周辺か塚上なのか、現状は塚と周辺の杉と灌木とが一緒になつて、塚の状況ははつきりしない。

(19) 春木場の観音堂 新里の観音とも云われている。

(20) 大館跡 大字上野字山津田の丘陵上にあり、空堀で区切られた四つの区郭をもつ大規模な山城である。誰れ居城か明らかでない。南部藩が秋田に対して構築した山城とも考えられる。

(21) 山津田の薬師 もと大館山の中腹にあつたが、しばしば移転して、現在のところに移築したものである。

(22) 赤渕の一里塚（本文参照）

(23) 宝石御番所跡 「橋場之関遺趾」は昭和二十七年八月御明神村の建立したもので、御番所跡と考えて建てたものであろう。場所としては大きい違いはない。

ないと考える。

(24) 三柱神社 鎧明神・兜明神・山神の三柱神を祀つて、三柱神社と云つている。橋場部落の産土神で、明和二年（一七六五）の庚申塔がある。

(25) 仙岩峠藩境塚と標柱 道路をはさんで藩境塚が築かれ、南部領の塚は東西径約二・五m、南北径約三・五m、高さ約〇・七mである。秋田領の塚は、東西径約三・四m、南北径約四・〇m、高さ約一・〇mで、頂部に高さ一二〇mの四角な石柱が立っている。石柱には「従是西南秋田領」と刻まれている。『下石町史』掲載の資料によると、寛永十六年（一六三九）両藩の御検使立会で御境がきめられており、文化二年（一八〇五）に御境柱を立てている記録がある。嘉永五年（一八四九）前々よりの木柱を石柱に直したとある。従つて、この石柱は嘉永五年のものであろう。

(26) 国見峠藩境塚と標識 道路をはさんで秋田領側には藩境塚があり、径約三mの高さ〇・七mの円形の塚がある。南部領側には塚がなく、台石を置いてその上に四角な標柱が立っている。台の高さ二八cm、巾九〇cm、奥行八七・五cm、標柱高さ一六二cm、巾三一cm、厚さ二八cmである。標柱には「従是北東盛岡領」とある。仙岩峠の標柱と同時に立てられたものであろう。秋田領から登つて来ると、ここから盛岡領になるし零石側から登つて来ると、仙岩峠でそこから秋田領になるわけである。



南部領貞享図 (岩手県立図書館蔵)



盛岡市 新田町並および三つ家外形



盛岡市 沢田の渡し場跡



盛岡市 腹川稻荷神社



盛岡市 土渕小学校付近の旧道



盛岡市・土渕・神山神社



滝沢村 日向一里塚



零石町 並木松



盛岡市 並木松



零石町 板橋の道標（写真中央の棚の中）



零石町 左の写真の道標



零石町 尾入御番所跡



零石町 秋田街道（右）、沢内街道（左）の分岐点



零石町 生森一里塚（北塚）



零石町 生森一里塚（南塚）



零石町 八幡宮（零石城跡本丸）



零石町 零石城跡の下に向う旧秋田街道



零石町 零石城跡東麓の旧秋田街道



零石町 館坂下の供養塔



零石町 永昌寺



零石町 大森地藏堂



零石町 臨済寺



零石町 廣養寺



零石町 生活資料館（知新館）



零石町 北浦稻荷社



零石町 代官屋敷跡



零石町 代官屋敷跡の説明板



零石町 三社座神社



零石町 旧街道及び高前田一里塚



零石町 高前田一里塚（北塚）



零石町 高前田一里塚（南塚）



零石町 橋場の旧道（右側）



零石町 春木場西の旧街道

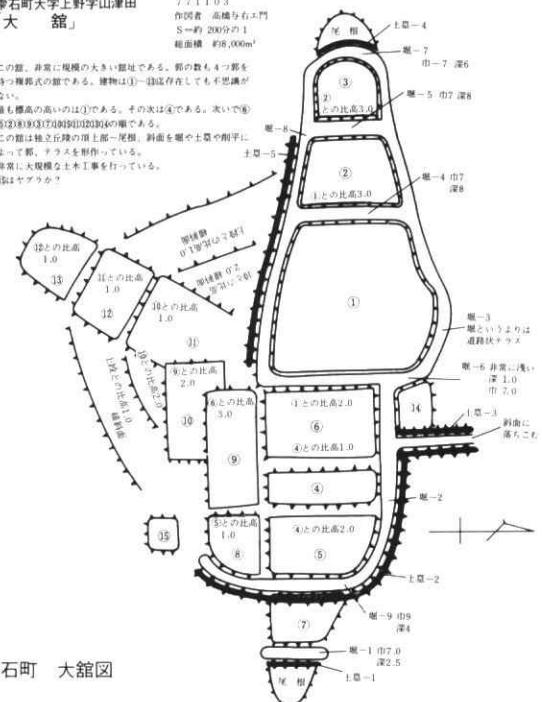


零石町 春木場西の旧街道

零石町大字上野字山津田 「大館」

7.7.1.1.0.3
作図者：高橋与右門
S-面積 2009m²
総面積 48,000m²

この館、非常に規模の大きい館である。部の数も4つ部を持つ複雑式の館である。建物は(1)～(6)在在しても不思議がない。
最も標高の高いのは(1)である。その次は(4)である。次いで(6)
(5)(3)(2)(9)(3)(7)順位である。(6)の順である。
この館は独立丘陵の頂上部～花壇、斜面を礫や土壌不削平に
よって敷、テラスを作っている。
非常に大規模な土木工事を行っている。
①はヤクウカ？



零石町 大館図



零石町 山津田の薬師



零石町 赤渕一里塚跡



零石町 橋場の旧道（右側）



零石町 橋場御番所跡



零石町 橋場の三柱神社



零石町 坂本川沿いの旧道



零石町 的方藩境塙 秋田領塙および標柱



零石町 秋田領の標柱



零石町 国見峠藩境標識



零石町 盛岡領の標柱

秋田街道

番号	称
新田町折形跡	新田町折形跡
沢田の渡し場跡	沢田の渡し場跡
厨川稲荷神社	厨川稲荷神社
神山神社	神山神社
日向二里塚	日向二里塚
尾入野十文字付近の並木松	尾入野十文字付近の並木松
板橋の道標	板橋の道標
尾入番所跡	尾入番所跡
元御所の分岐点	元御所の分岐点
生森二里塚	生森二里塚
滴石城跡・八幡宮	滴石城跡・八幡宮
永昌寺・大森地藏堂	永昌寺・大森地藏堂
臨済寺	臨済寺
沢内街道の分岐点	沢内街道の分岐点
広養寺・知新館	広養寺・知新館
零石代官所跡	零石代官所跡
三社座神社	三社座神社
高前田一里塚	高前田一里塚
春木場の觀音堂	春木場の觀音堂
大館跡	大館跡
山津田の薬師	山津田の薬師
赤瀬の一里塚跡	赤瀬の一里塚跡
零石御番所跡	零石御番所跡
三柱神社	三柱神社
仙岩町蕃境塚と標柱	仙岩町蕃境塚と標柱
国見峠蕃境塚と標識	国見峠蕃境塚と標識



土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものである。(承認番号) 昭55総 複、第23

岩手県文化財調査報告書 第四十五集

秘 田 街 道

昭和五十五年三月三十一日 発行

編 集 岩手県教育委員会事務局文化課

発 行 岩手県教育委員会

印 刷 株式会社 熊谷印刷